

齋江家の鉄製品

(上古川)

鉄製品は鍋釜が中心で、日常的に使用されたものでも50種を越える。中でも釜は煮る、炊く、蒸す、煎る、といった機能に適合する型・大きさなど業種別に特注により、製作された。茶釜（かんす 罐子）は、銀茶釜、小鴨茶釜と言われ、齋江鑄造場の目玉商品であった。

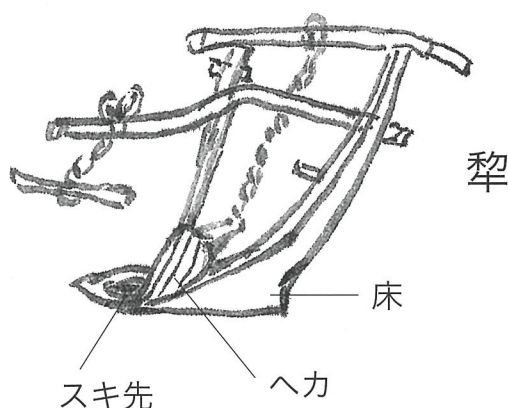


(1) スキ先とヘカ[※]

田畑の環境、面積、土壌などによって使用されるすき犁の形が違い、各地域に似合ったものを作っていた。改良先、河島式先、大正先、豊岡先、長野式先、大坂改良先などがあった。

(2) 軍需品

文久3年（1863）に鳥取藩から「武器ぶき御用聞所」に指定され、北栄町六尾反射炉で造られた大砲の砲弾をつくっていた。



(3) 特注品

記念碑、神鈴、しんれい焼酎釜、菓子釜、塩釜など

(注)

ヘカ：犁先と一組として使う農具のひとつ。土塊を反転する耕具
反射炉：溶鋳炉の一種で、大量生産に適す。